メイ英首相が強姦された子供たちへの補償を差止め：彼らは虐待に“合意した”

英政府は小児強姦の犠牲者への補償を拒否

【訳者注】言語道断、国家失格、といった言葉しか出てこないだろう。メイ首相は明らかに、ペド犯罪者への寛容を主張する英政府の一員で、例えば、明らかにペドフィリアとわかっている人物の子供との養子縁組を禁止するのは、人権侵害だと言っている。ペド枢軸国ともいうべき英米の特権階級（元英首相エドワード・ヒースがペドであり、ジミー・サヴィルは、王家とつながりがあるため最後まで自由の身だった）、それにローマ・カトリックは、官憲の手の及ばない、自由な領域に住んでいる。この身分にあこがれて、彼らの仲間になろうとする愚劣かつ卑劣極まる輩に、この世界はあふれている。

彼らが、ペド犯罪の被害者に厳しく、加害者に寛容なのは、この世界の権力者トップがその犯罪者であり、彼らの立場を危うくするようなことを、したくないからである。そのことに全くふれないメディアも、この輩の一部である（メディアの幹部がすべてペドファイルだとは言わない）。

何度も言うが、同じ犯罪でも性犯罪は、いわばグレイゾーンであり、相手が求めたとも、愛の行為だとも、何とでもごまかすことができる。それを利用し、なし崩しに人間を堕落させ、骨抜きの奴隷にしようとするのがルシファーであり、その下で働く者たちである。それに対抗して、人間が神と責任を分担し、神に協力するのがこの世界のあり方だと、性倫理を強調するある宗教が、あらゆるメディアから一斉に叩かれるということが、数十年前に起こった。メディアの素性が明らになった現在、あの事件の意味も明らかになりつつある。

Jay Greenberg, www.nnettle.com
July 18, 2017

英首相 Theresa May の政府が、ペドファイルどもによって強姦された何百人という子供たちへの補償を、彼らが性的虐待に“合意した”という理由で、拒否している。
http://www.nnettle.com/tag/pedophile

首相は、12 歳というような年少の子供が、子供虐待やペドフィリアに生き残った場合、イギリス政府による補償を拒否するという、この決定を支持した。

このショッキングな暴露話が明るみの出たのは、5 つの慈善団体からなるグループが、情報開示の要求を、「犯罪による障害への補償庁」（CICA）へ提出したときであり、そのとき、補償庁は、強姦され性的に襲撃された 700 人以上の子供たちに、補償を拒否したことが明らかになった。

彼らは、その子供が“それを求めたのだ”という主張を固持した――そのレイピストがすでに法廷において有罪とされ、その犯罪によって服役中であるような場合でも、そうだった。

The Canary（英紙）によれば、補償庁は、生き残った者たちに、それはあなたたちが、レイプあるいは性的襲撃に合意したからだ、と話したという。
https://www.thecanary.co/2017/07/18/theresa-mays-government-wont-compensate-children-raped-says-consented-abuse/

ガーディアン紙によれば、Barnardo's, Victim Support, Liberty, Rape Crisis,それに National Working Group といった慈善機関が、法務長官 David Lidington に手紙を送り、補償庁のガイドラインを読んでみるよう求めた。
https://www.theguardian.com/society/2017/jul/18/government-denying-sexually-abused-children-compensation

被害者非難

政府の「子供の性的虐待に対する独立調査」の証拠を調べた Barnardo's 社は、補償庁の方針は、次のようだと言っている（pdf p.2）：――
https://www.iicsa.org.uk/key-documents/896/view/CRI000014.pdf

> “事実上の”合意と、法に述べられた合意を区別している。…　この補償を求めたその年少者の場合、それは、補償庁の言い分では、“この申請者の場合、彼女は、犯罪者といわれる者との性関係を進んでもったと思われる”という理由で、否定された。…　我々は、補償庁の方針が、法的な合意を考慮することに逆らうものであることを、深く憂慮している。…
>
> 付け加えると、補償庁の合意についての考え方は、性的に虐待し搾取する関係についての理解を欠くように思われる。このような関係においては、被害者は“合意する”よう

> に見えるかもしれない。…しかしこのような状況においては、虐待者は、その年少者を注意深く手なずけ、操作して、彼らの関係や虐待が、通常のことだと信じさせたであろう。この手なずける過程は、しばしば非常にうまく行われるので、その年少者は、自分が犠牲者であることに気づかないことがある。これは、その年少者が実は被害者でないということを、意味するものではない。…
>
> 我々はまた、補償庁の、性的虐待と搾取の問題についての理解の、明らかな欠如が、こうした犯罪の犠牲になった年少の人々の苦しみの、原因となりうることを、憂慮するものである。

レイプがレイプでなくなるとき

ガーディアン紙はこう報じている：——
https://www.theguardian.com/society/2017/jul/18/government-denying-sexually-abused-children-compensation

> ひとつの例だが、年上の男たちの集団が、14 歳の少女を強姦し性的に襲撃したことで有罪とされ、30 年の禁固刑となった。彼女のケースが Victim Support（慈善団）によって取り上げられた。彼女は、“合意のない性行為の犠牲者ではなかった”という理由で、補償庁による補償は否定された。
>
> 彼女は大きな打撃を受け、自分の受けた虐待の責任が、自分にあるのではないかという思いにつきまとわれた、とこの慈善団は言った。

嫌悪を催す

The Canary は補償庁に連絡して、コメントを述べようとしたが、返答はなかった。

補償庁の、もっと広く言えば、政府の態度は、唖然とするものである。**子供たちが、強姦と性的虐待の、想像できない拷問を体験しなければならないとは、どれほどのトラウマが残るだろうか。しかし、その挙句に、自分を保護してくれると思っていた政府に、せいぜい、「まあ、それはあなた自身の落ち度だねえ」と言われるということ——これは国家暴力である。**保守党政府は、これら慈善団体の要求に耳を傾け、補償庁が支配されているルールを、変えなければならない。今すぐ！

——以上